

## 4-4-4.奄美大島における自然保護運動の歴史と エコツアーガイドのかかわり

宋 多情

### History of Nature Conservation Movement in Amami Oshima and Involvement with Eco Tour Guide

SONG Da-jeong

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター  
*International Center for Island Studies, Kagoshima University*

#### 要旨

奄美大島における自然保護運動の歴史は長く、そこには島内の様々な自然観察会・自然保護団体が重要な役割を果たしている。自然を観光資源として利用する奄美大島のエコツアーガイドたちは、その多くがそれぞれの考えに沿った組織にかかわり、ガイド業と保護に関する活動を行っている。

#### 研究内容

2019年8月23日、瀬戸内町西古見へ誘致を検討していた大型クルーズ船寄港地開発計画を撤回する記者会見が行われた。2017年8月14日、国土交通省港湾局による「島嶼部における大型クルーズ船の寄港地開発に関する調査の結果」が発表されてから約2年間、誘致を推進したい町とそれに反対する地域住民の間に葛藤が続いた。町が誘致を断念する過程において重要な役割を果たしたのは、2018年2月に発足した「奄美の自然を守る会」の反対活動である。地域住民が中心でありながら外部と連携・協力したことで、西古見の自然を守ることができた。

このような奄美大島における自然保護運動の歴史は長く、主に1980年代から1990年代にかけて複数の組織が結成され、様々な自然保護に関する活動が行われてきた。奄美大島の自然観察会・自然保護団体の特徴は、地元出身者を中心に移住者が一緒になり活動していることと、ガイドを含む観光関連事業者が積極的にかかわっている点である。特に、奄美大島では1990年代に入り陸域のエコツアーガイド業が始まるが、これらの初期のエコツアーガイドたちは、ガイドになる前後で最も活発な時期の自然保護運動を経験している。

本稿では、奄美大島における自然観察会・自然保護団体の展開と、それに関連する自然保護運動を整理する。特に、初期のエコツアーガイドたちのかかわりを中心に取り上げる。

最初は、自然保護運動というより、自然保護の意識を持った地域住民が主体となる、自然観察会としての位置づけが大きかった。1986年、急速に進む自然破壊を憂慮した地元出身の有識者たちが集まり、保護対策を考える「奄美の自然を考える会」が発足した<sup>1</sup>。会には教員など専門知識を持った研究経験の豊富な人が多く、教育の側面から観察会と生物等の研究調査を実施し、講演会やシンポジウムを通じた啓発活動も行っていた。新奄美空港の整備によるサンゴ礁破壊が問題となった1988年には、野鳥の生息環境を守ることを目的とした「奄美野鳥の会」が立ち上げられた。会の結成をよびかけた常田守氏は、奄美大島における様々な自然観察と保護に関する活動を主導する立場にあり、奄美の自然を考える会にも設立当初から携わっていた。1989年には、2名の獣医師を中心に「奄美哺乳類研究会」が発足し、マンダースの調査研究が始まった。約30年間活動を継続させているこの3つの組織は、奄美大島の自然保護に中心的な役割を果たしてきた。

1990年代には、自然保護により重点を置いた団体が設立された<sup>2</sup>。1989年9月、旧笠利町用安の消波ブロック設置反対をきっかけに「奄美の海辺を守る会」が結成された。1995年1月には、この会を中心に「環境ネットワーク奄美」を発足させ、龍郷町市理原と旧住用村市崎に計画されたゴルフ場建設に反対する日本初の「自然の権利」訴訟を起こした。この行政訴訟は、4種の動物（アマミヤマシギ、ルリカケス、オオトラツグミ、アマミノクロウサギ）が原告となり、自然の権利を守ろうとした事例として、全国的に自然保護に対する新たな意識を喚起するきっかけとなった。中心メンバーであった常田氏と高美喜男氏（当時、奄美野鳥の会の事務局長（現副会長））、恵沢岩生氏（当時、奄美野鳥の会会員）は、現在、奄美大島の陸域をフィールドにするエコツアーガイドとしても活動している。常田氏は2011年新たに「奄美自然環境研究会」を、恵沢氏は2010年に「NPO法人群島鳥類研究会」を発足させた。奄美大島には、これらの組織の他にも、様々な分野の自然観察会・自然保護団体が存在し、2000年代以降のエコツアーガイドたちも、その多くがそれぞれの考えに沿った組織にかかわり、ガイド業と保護に関する活動を行っている。

### 参考文献

鹿児島県地方自治研究所編 2005. 奄美戦後史—揺れる奄美, 変容の諸相. 379頁, 南方新社, 鹿児島.

宋多情 2017. 奄美大島におけるエコツーリズムの受容プロセス. 島嶼研究, 18(1): 35-54.

<sup>1</sup> 「奄美の自然を考える会」の前身は「奄美植物友の会」である。その他に「奄美昆虫同好会」がすでに存在していたが、会の活動が何年に始まったかは不明である（当時の中心会員田畑満大氏への聞き取り調査による）。

<sup>2</sup> 他に、1987年1月「百合ヶ浜の自然を守る会」（与論町百合ヶ浜港の建設反対）、1991年3月「たつごうの自然を守る会」（ゴルフ場の建設反対）などが発足した。